

# 稲作情報

Vol.2 平成28年6月10日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部  
 問い合わせ先：本吉農業改良普及センター  
 TEL：0226-29-6044

HP：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/motoyosinoukai.html>



生育は順調，平年より4～7日進んでいます。

## 気象経過

6月に入ってから気温はほぼ平年並，少雨傾向。

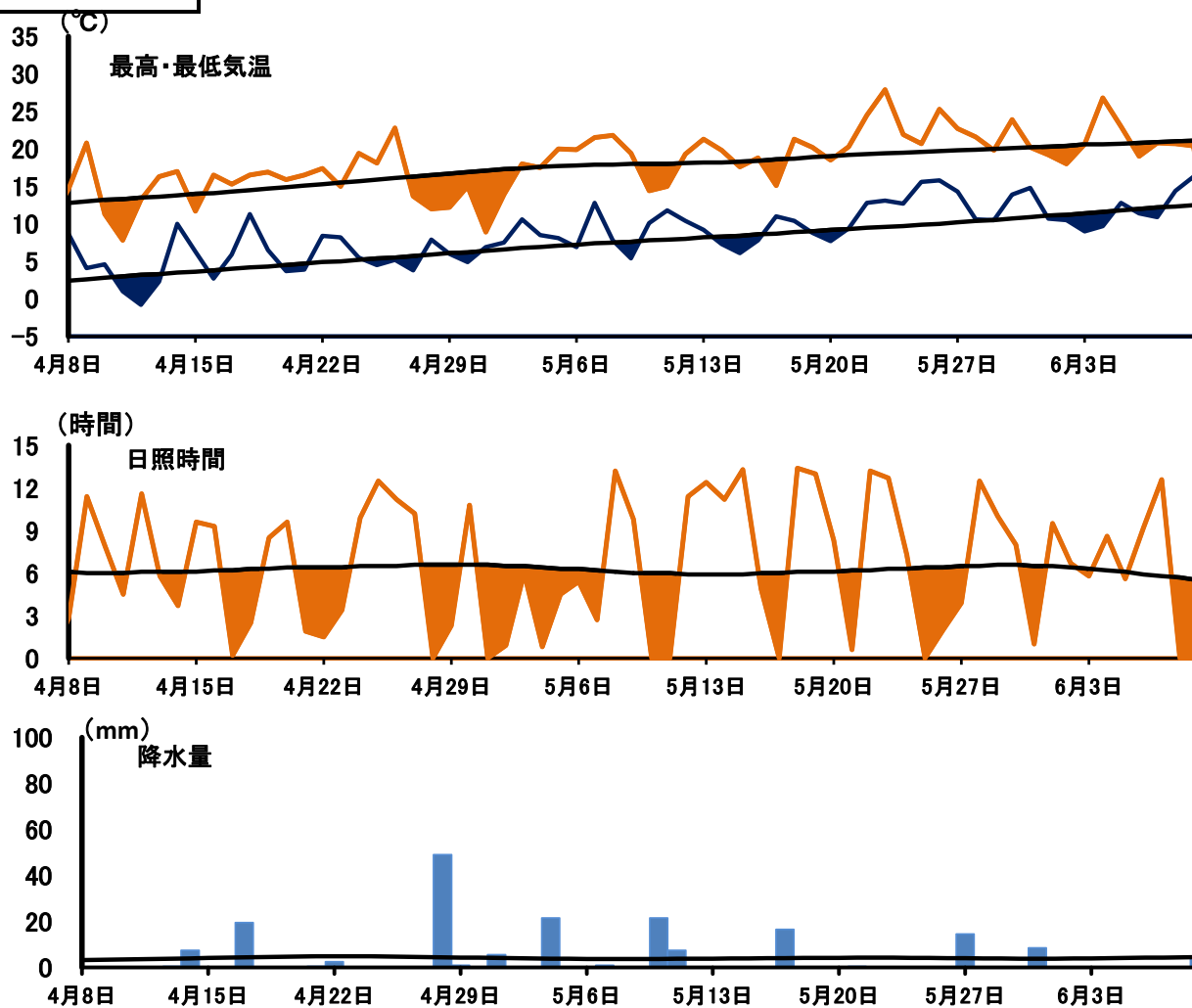


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：4/8～6/9）

5月は全般的に気温が平年より高く，田植え直後の中旬を中心に多照傾向であったことから，水稻の生育は順調に進んでいます。6月に入ってから，気温は平年並に推移しています。一方，降水量は，5月以降は周期的に降雨がありましたが，全般的に少雨傾向です。

表1 半月別気象表（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H28	平年	差	H28	平年	差	H28	平年	差	H28	平年	比	H28	平年	比
5月3半旬	13.7	12.9	0.8	18.6	18.2	0.4	9.0	8.2	0.8	48.3	29.6	163%	7.5	19.2	39%
5月4半旬	13.9	13.5	0.4	18.8	18.7	0.1	9.1	8.9	0.2	39.6	30.3	131%	16.5	20.3	81%
5月5半旬	17.5	14.2	3.3	23.1	19.4	3.7	12.7	9.6	3.1	33.8	31.4	108%	0.5	20.8	2%
5月6半旬	17.3	14.9	2.4	22.3	20.0	2.3	13.3	10.5	2.8	37.4	39.1	96%	23.0	23.4	98%
6月1半旬	15.6	15.7	0.0	21.5	20.5	1.0	10.5	11.4	-0.9	36.2	31.5	115%	0.0	19.7	0%
6月2半旬	16.8	16.3	0.5	20.2	21.0	-0.8	13.3	12.3	0.9	21.8	22.9	95%	3.5	17.4	20%

※6月2半旬は，6/5～9の4日間の値。

## 生育経過 生育は概ね順調。平年より4~7日程度進んでいます。

### 1) 生育調査ほ

両生育ほとも、草丈はほぼ平年並、葉数は0.5~0.9枚多く、平年より4~7日生育が進んでいます。

気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、茎数は少なく(平年比64%)なっていますが前回の約2倍に増えており、葉色はやや濃く(平年比105%)、生育は順調です。

南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、茎数はやや多く(平年比108%)、葉色は濃く(平年比117%)となっています。

管内の生育も概ね順調で、生育調査ほと同様に平年より4~7日進んでいると思われます。

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		6月1日調査			6月10日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
生育調査ほ	平成28年	21.4	82	5.8	24.7	154	7.2	38.4
	前年	21.7	115	5.8	24.4	205	7.1	34.7
	平年	19.5	121	4.7	23.4	240	6.3	36.6
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月15日)	前年比(差)	-0.3	71%	0	101%	75%	0.1	111%
	平年比(差)	1.9	67%	1.1	106%	64%	0.9	105%
生育調査ほ	平成28年	25.6	122	5.4	26.0	228	6.6	40.2
	前年	25	135	5.5	27.2	253	7.0	37.5
	平年	20.1	103	4.6	26.5	215	6.1	34.3
南三陸町入谷 ササニシキ (5月13日)	前年比(差)	0.6	90%	-0.1	96%	90%	-0.4	107%
	平年比(差)	5.5	118%	0.8	98%	106%	0.5	117%

注: 平年値は過去5カ年(平23~27年)の平均値

### 2) 土壌改良プログラム

「土壌改良プログラム」とは?

客土した復旧農地で、地力不足を緩効性肥料と追肥で補い、たい肥で土づくりを行うことにより、収量を確保しながら5カ年で通常の地力に戻すプログラム。

土壌改良プログラムの実証ほは、今年で農地復旧後3年目です。

両区とも、前年よりも生育旺盛となっています。

実証区は、茎数が参考区の倍以上となっており、生育調査ほ(ひとめぼれ)よりも多くなっています。葉色は、両区とも前年比約1.5倍の濃さになっています。

表3 復旧農地の生育調査結果

調査地点名 (田植日)	区名		6月1日調査		6月10日調査		
			草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)
土壌改良プログラム実証ほ	実証区 (たい肥3t)	平成28年	25.7	173	26.8	377	38.8
		前年	17.6	120	22.2	135	26.8
		前年比(差)	8.1	144%	121%	280%	145%
南三陸町歌津 (5月13日)	参考区 (たい肥3t)	平成28年	28.5	129	27.8	165	39.1
		前年	19.4	134	23.3	148	24.4
		前年比(差)	9.1	97%	119%	111%	160%

※土壌改良プログラム実証ほの基肥は、両区とも「てまいらず」42kg/10a。

※品種はすべて「ひとめぼれ」。苗はJA南三陸歌津育苗センターから手配。

※参考区は、過去2年間たい肥0.6t散布し、今年はいたい肥3t散布した。

### 3) 鉄コーティング直播

直播展示ほは、は種(5月18日)後好天に恵まれたため3日後(5月21日)には出芽が確認され、出芽揃いは5月25日(は種後7日)でした。その後も生育は順調に進んでおり、草丈と茎数は昨年より増加し、葉数はほぼ昨年並でした。

表4 直播展示ほの生育調査結果

調査地点名 (は種日)		6月10日調査		
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)
直播展示ほ	平成28年	16.4	121	3.9
気仙沼市本吉町	前年	11.0	108	4.1
(5月18日)	前年比(差)	149%	112%	-0.2

※鉄コーティング直播栽培4年目。品種は「ひとめぼれ」。

### 4) 復旧農地

管内では、今年新たに2つのほ場整備地区で水稲作付けが再開されました。昨年から再開した工区も含め、鉄コーティング直播に挑戦した工区もありますが、移植ともども順調に生育しています。ただし、雑草が出始めた工区も散見されており、対策に苦慮しています。

## 今後の技術対策

### ◎水管理

- 分げつの発生の少ないほ場では、浅水(2~3cm)管理として水温の上昇に努め、分げつの発生を促進させましょう。
- 低温や強風が予想される場合は、5~6cmの深水にしましょう。
- 水温の上昇に伴い土壌中の有機物の分解が進み、土壌からガスが発生する場合があります。ガスの発生が多いと根からの養分吸収を阻害するため、一時的に落水したり間断かん水を行い、土壌中に酸素を供給しましょう。

### ◎雑草防除

- 雑草が残っている場合は、中・後期剤を散布し防除しましょう。散布の際は、農薬ラベルに記載された使用時期および使用方法に注意し、遅れないように散布してください。
- 除草剤の種類によっては、雑草に全く効果がみられない場合があります。雑草の種類や草丈葉齢を確認し、適切な薬剤を選びましょう。

(例) ノビエが残ってしまった場合、除草剤の選択を誤ると・・・

バサグラン液剤(ナトリウム塩)	→ ×	ノビエには全く効きません (広葉雑草は枯れます)
バサグラン粒剤(ナトリウム塩)		
クリンチャーEW	→ ○	ノビエは枯れます (広葉雑草には全く効きません)
クリンチャー1キロ粒剤		
クリンチャージャンボ		

「雑草の種類がわからない、どの除草剤を散布すれば良いのかわからない」といった場合には、散布する前に普及センターまでご相談ください。

### ◎病害虫防除

#### 《葉いもち》

病害虫防除所の発生予察情報(6月7日発表)によると、葉いもちの発生時期は平年並(7月1半旬)で、発生量も平年並と予察されています。

(イ) 残苗がまだ残っているほ場がみられます。残苗は、本田でのいもち病の発生源になるので速やかに処分してください。

- (ロ) 箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤をそれぞれの防除適期に散布してください。(田植時期が遅い場合でも防除適期に散布してください)。
- (ハ) 箱施用剤による予防防除を行った場合でも、発病がみられたときには茎葉散布剤で速やかに防除してください。
- (ニ) 葉いもちは、穂いもちの伝染源となります。病勢が進展してからの防除では十分な効果が期待できないので、水田をこまめに見回り、早期発見・早期防除に努めてください。

**◆防除上の注意◆**

- 粒剤は、水深を3cm以上にして散布し、各々の薬剤の湛水期間を必ず守ってください。
- パック剤は、水深を3～5cm程度にして均等に投げ込んでください。藻類や浮草の発生が多い場合は、薬剤の拡散が阻害されるので、粒剤等で対応してください。
- 茎葉散布剤を使用する場合は、耐性菌の出現や増加を避けるため、同一系統薬剤の連続使用や多数回散布は行わないでください。
- 薬剤を散布する際は、周辺へ飛散しないよう注意して下さい。



「葉いもち防除は、予防防除と発病の早期発見が大事です」

**《イネドロオイムシ》**

イネドロオイムシの発生時期（幼虫加害最盛期）は平年並（6月6半旬）、発生量はやや少ないと予察されています。

- (イ) 6月の気温が低温で経過すると成虫の産卵期間が長引き、幼虫の加害期間も長くなります。今後の気象経過に注意し、発生が長引く場合は追加防除を実施してください。

**◆防除上の注意◆**

- カーバメート系薬剤や有機リン系薬剤に抵抗性を示す個体群が確認されているため、効果が十分でない場合は別系統の薬剤を使用してください。
- 「蚕注意マーク」等の表示がある薬剤は、事前に周辺の養蚕の状況等に注意を払い、残効性等の特性を考慮してから使用（時期）を決めてください。

**《斑点米カメムシ類》**

- (イ) 畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の重要な増殖源となります。計画的に草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑えてください。

**農薬危害防止運動実施中！**

宮城県では、6月6日～8月5日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。